

# 日本思想史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
日本思想史概論	日本思想史入門	2	片岡 龍	4	火	5
日本思想史概論	噂話から探る日本思想史	2	引野 亨輔	3	火	2
日本思想史基礎講読	日本の木版本を読む	2	引野 亨輔	4	金	2
日本思想史基礎講読	近代史料を読む	2	岡安 儀之	3	金	2
日本思想史各論	江戸時代の紀行文を読む	2	引野 亨輔	6	月	4
日本思想史各論	「辺境」の観点から日本思想史を再考する	2	片岡 龍	5	月	5
日本思想史各論	東北思想の系譜と射程	2	河西 英通	集中		
日本思想史各論	「辺境」の観点から日本思想史を再考するⅡ	2	片岡 龍	6	月	5
日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔 片岡 龍	5	水	3
日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔 片岡 龍	6	水	3

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：片岡 龍 (教授)

講義コード：LB42501, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

日本思想史入門

**2. Course Title (授業題目)：**

Introduction to the History of Japanese Philosophy

**3. 授業の目的と概要：**

日本思想史上のいくつかのトピックを取り上げながら、日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといった関心を誘うテーマを中心に講義し、また映像資料の感想や参考書の整理等と併せて、小レポート（2～3回）形式で受講者自身の思考の過程を問う。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

The lecture focuses on topics that attract interest, such as what is Japan, what is thought (thinking), and what is history, while taking up several topics in the history of Japanese thought. (See Japanese text above for details.)

**5. 学習の到達目標：**

日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといったテーマを、受講者自身が思考する姿勢を養成することを目標とする。その過程を通して、日本思想史に対する基礎的知識と関心を高めることを期待する。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

The goal is to train students to think about topics such as what is Japan, what is thought, and what is history. (See Japanese text above for details.)

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 第1回：ガイダンス、丸山眞男と戦後日本1
- 第2回：「戦後」とは、丸山眞男と戦後日本2
- 第3回：丸山眞男「日本の思想」
- 第4回：加藤周一「雑種文化」
- 第5回：加藤周一、幽霊と語る
- 第6回：加藤周一『日本文学史序説』
- 第7回：原爆と日本思想史
- 第8回：戦後知識人の限界と課題
- 第9回：沖縄から考える（阿波根昌鴻1）
- 第10回：平和と生命（阿波根昌鴻2）
- 第11回：思想と運動
- 第12回：天皇をめぐる問題1（戦争責任）
- 第13回：天皇をめぐる問題2（「象徴」）
- 第14回：天皇をめぐる問題3（生前退位）
- 第15回：東北から考える（安藤昌益ほか）

**8. 成績評価方法：**

レポート [50%] 平常点 [50%]

**9. 教科書および参考書：**

教科書：プリント配布

参考書（小レポート用）：『日本思想史ハンドブック』（苅部直・片岡龍編、新書館）

**10. 授業時間外学習：**

小レポート（2～3回）の準備を中心に、教科書の指定箇所を学習する。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 (准教授)

講義コード：LB32201, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

噂話から探る日本思想史

2. Course Title (授業題目)：

History of Japanese Thought Searched from Rumors

3. 授業の目的と概要：

思想史は、高名な知識人が書いた書物を分析する学問であると考えられがちである。しかし、前近代社会において、多くの知識は文字よりも話し言葉を通じて伝達されてきた。思想史研究にとって、このような知識伝達手段の変化に着目することは、大切な課題である。そこで、本授業では、日本史上における様々な噂話を取り上げ、口頭言語を通じて形成された日本思想の特質を明らかにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The history of thought is often viewed as a study that analyzes books written by renowned intellectuals. However, in pre-modern societies, much knowledge has been transmitted through oral language rather than written. It is an important issue for the history of thought to focus on such changes in the means of knowledge transfer. This course deals with various rumors in Japanese history and clarifies the characteristics of Japanese thought formed through oral language.

5. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、日本史上における知識伝達手段の変容について理解するとともに、多角的な視座から日本思想の特質を分析できるようになることである。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The goals of this course are to understand the transformation of knowledge transfer in Japanese history and to be able to analyze the characteristics of Japanese thought from multiple perspectives.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

日本史上の様々な噂話に着目しつつ、知識伝達手段の変遷とそれに伴う日本思想の変容を概観する。

第1回：ガイダンスー「噂」が有する力ー

第2回：中世の噂ー落書（ラクショ）に注目してー

第3回：一揆高札と落書起請文

第4回：未来の噂ー未来予言者としての聖徳太子ー

第5回：出生をめぐる噂ー安倍清明は狐の子か？ー

第6回：ご落胤の噂ー平清盛は天皇の子か？ー

第7回：英雄生存の噂ー源義経はチンギスハーンになったか？ー

第8回：悪政の噂ー戦国大名の隠居と天人相聞説ー

第9回：江戸の噂ーかわら版売りとは奇談流行ー

第10回：天狗小僧の噂ー平田篤胤の異界フィールドワークー

第11回：人の噂で飯を食う男ー江戸の情報屋・藤岡屋由蔵ー

第12回：殿様上京の噂ー武一騒動からみる徳川幕藩体制ー

第13回：土地均分の噂ー明治維新と民衆意識ー

第14回：千里眼の噂ー近代科学と迷信のゆくえー

第15回：まとめ

期末試験

8. 成績評価方法：

毎回授業終わりに課す小レポート30%、期末試験70%

9. 教科書および参考書：

教科書：必要に応じて資料を配付する。

参考書：『中世のうわさ』（酒井紀美、吉川弘文館）、『うわさの遠近法』（松山巖、青土社）

10. 授業時間外学習：

各授業の終わりに、より深い理解を目指すための参考文献を紹介するので、適宜自主学習に努めること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 (准教授)

講義コード：LB45202, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

日本の木版本を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Japanese Old Books Printed in Woodblock Prints

3. 授業の目的と概要：

江戸時代に商業出版が成立すると、庶民層を対象とする通俗的な書物が数多く出版され、それらは社会に大きな影響を与えた。そこで、本授業では、受講生たちに、江戸時代に出版された幾つかの木版本を読んでもらい、基礎的な史料読解能力と伝統的な文化への理解力を身に付けてもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

When commercial publishing was established in the Edo period, many popular books for the general public were published, which had a major impact on society. In this course, students will read some books printed in woodblock prints published during the Edo period, and through that experience, will acquire basic ability to read historical materials and understand Japanese traditional culture.

5. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、初歩的なくずし字を解読できるようになることと、木版本から江戸時代の文化的特徴を理解できるようになることである。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The goals of this course are to be able to decrypt kuzushi-ji (characters written in cursive style) and to understand the cultural features of the Edo period from books printed in woodblock prints.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

江戸時代に出版された通俗的な木版本のうち、手習い本と仮名草子を取り上げ、その読解と発表・討論を通して史料読解能力を鍛える。

第1回：ガイダンス—江戸時代と商業出版—

第2回：手習い本を読む①—『女実語教』と居初津奈—

第3回：手習い本を読む②—『女実語教』と江戸時代の諸思想—

第4回：手習い本を読む③—『女大学』と貝原益軒—

第5回：手習い本を読む④—『女大学』と江戸時代の現実—

第6回：仮名草子を読む①—『清水物語』と教義問答体小説の登場—

第7回：仮名草子を読む②—『清水物語』にみる江戸時代の思想界—

第8回：仮名草子を読む③—『清水物語』にみる江戸時代の身分制度—

第9回：仮名草子を読む④—『清水物語』の国家観—

第10回：仮名草子を読む⑤—『祇園物語』と江戸時代の儒仏論争—

第11回：仮名草子を読む⑥—『祇園物語』にみる唯心弥陀思想—

第12回：仮名草子を読む⑦—『祇園物語』にみる因果応報思想—

第13回：仮名草子を読む⑧—『祇園物語』と東アジアの心学—

第14回：仮名草子を読む⑨—『祇園物語』における神儒仏—

第15回：まとめ

期末試験

8. 成績評価方法：

古文書読解能力をチェックする期末試験 40%、1人1回担当する課題発表 40%、授業中に実施する古文書読解チェック 20%

9. 教科書および参考書：

教科書：課題となる木版本のコピーを授業ごとに配布する。

参考書：『女大学集』（石川松太郎編、平凡社）、『新日本古典文学大系 74 仮名草子集』（岩波書店）

10. 授業時間外学習：

発表の担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。

また、課題の読解は、受講生全員事前に済ませておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：岡安 儀之（助教）

講義コード：LB35202, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

近代史料を読む

**2. Course Title (授業題目)：**

Reading historical materials of modern period

**3. 授業の目的と概要：**

明治期に刊行された新聞の論説、投書、雑報記事などを精読する。また、その文献が有する思想的・同時代的意義についても検討する。

文献例：『東京日日新聞』、『郵便報知新聞』、『朝野新聞』、『読売新聞』、『時事新報』など。

**4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)**

**5. 学習の到達目標：**

日本思想史研究に用いる史料・文献を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得する。

**6. Learning Goals (学修の到達目標)**

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1) オリエンテーション
- 2) 報告と質疑応答
- 3) 報告と質疑応答
- 4) 報告と質疑応答
- 5) 報告と質疑応答
- 6) 報告と質疑応答
- 7) 報告と質疑応答
- 8) 報告と質疑応答
- 9) 報告と質疑応答
- 10) 報告と質疑応答
- 11) 報告と質疑応答
- 12) 報告と質疑応答
- 13) 報告と質疑応答
- 14) 報告と質疑応答
- 15) 報告と質疑応答

**8. 成績評価方法：**

平常点（報告内容・質疑応答への積極的参加の有無） [70%]

出席点 [30%]

**9. 教科書および参考書：**

教科書：授業時に配布する。

参考書：授業時に適宜紹介する。

**10. 授業時間外学習：**

毎回必ずテキスト該当箇所を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。

**11. 実務・実践的授業/Practical business：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 (准教授)

講義コード：LB61401, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

江戸時代の紀行文を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading the Travelogues Written During the Edo Period

3. 授業の目的と概要：

現代人にとって、旅の体験は思想形成に大きな影響をもたらすが、庶民層もようやく安心して旅を楽しめるようになった江戸時代の人々にとって、旅の学習効果はさらに大きなものであった。そこで、本授業では、受講生たちに、江戸時代に記された幾つかの紀行文を読んでもらい、思想形成過程の分析手法を身に付けてもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

For modern people, the experience of travel has a great influence on the formation of thought. But for the people of the Edo period when the general public became able to enjoy traveling with confidence, the learning effect of travel was even greater. In this course, students will read some travelogues written in the Edo period and learn the analytical methods of the thought formation process.

5. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、江戸時代に記された紀行文の読解を通じて、思想形成過程の分析手法を身に付けることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The goal of this course is to acquire the analytical methods of the thought formation process through reading the travelogues written during the Edo period.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第1回：ガイダンス

第2回：先行研究から学ぶ①—八木清治『旅と交遊の江戸思想』—

第3回：橋南谿『東遊記』を読む①—旅と学び—

第4回：橋南谿『東遊記』を読む②—旅人がみた東北の風俗—

第5回：橋南谿『東遊記』を読む③—江戸時代の水土論—

第6回：橋南谿『東遊記』を読む④—江戸時代の名所論—

第7回：橋南谿『東遊記』を読む⑤—知識人のネットワーク—

第8回：橋南谿『東遊記』を読む⑥—紀行文からみる江戸時代—

第9回：先行研究から学ぶ②—鈴木理恵『近世近代移行期の地域文化人』—

第10回：古川古松軒『東遊雑記』を読む①—旅立ちの背景—

第11回：古川古松軒『東遊雑記』を読む②—様々な東北観—

第12回：古川古松軒『東遊雑記』を読む③—江戸時代の東国・西国—

第13回：古川古松軒『東遊雑記』を読む④—国ぶりの誕生—

第14回：先行研究から学ぶ③—羽賀祥二『史蹟論』—

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

担当回の発表 40%、平常授業への参加度 30%、小レポート 30%

9. 教科書および参考書：

教科書：使用する資料や論文については、授業中に適宜指示する。

参考書：『旅と交遊の江戸思想』（八木清治、花林書房）、『近世近代移行期の地域文化人』（鈴木理恵、塙書房）

10. 授業時間外学習：

発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。

また、授業ごとに指定する資料・論文は、受講生全員が事前読んでおくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：片岡 龍 (教授)

講義コード：LB51501, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

「辺境」の観点から日本思想史を再考する

**2. Course Title (授業題目)：**

Reconsidering the history of Japanese Philosophy from the perspective of "Frontier"

**3. 授業の目的と概要：**

日本思想史を「辺境」の観点から再考することを目的とし、テキスト (A 片岡龍『16 世紀後半から 19 世紀はじめの朝鮮・日本・琉球における<朱子学>遷移の諸相』、B 真壁仁・野添憲治『民衆史としての東北』) を精読した発表をもとに、討論をおして思想史の方法論的自覚を高める。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

The purpose of this study is to reconsider the history of Japanese Philosophy from the perspective of "Frontier", and to raise the methodological awareness of the history of thought through discussions based on presentations that carefully read the two texts.

**5. 学習の到達目標：**

「辺境」の問題を共有し、専門を横断して研究領域を開拓する能力を養成する。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

This course aims to share the problem of "Frontier", and to develop the ability to set a research topics across specialties.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業は基本的に発表・討論形式で進める。

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：B「序一化外の風土・東北」

第 3 回：A「序論」

第 4 回：B「未墾地に挑んだ女房たち」

第 5 回：A「李退溪 (1501-70) の「心は神明の舎」観」①

第 6 回：B「鉱山史のなかの民衆」

第 7 回：A「李退溪 (1501-70) の「心は神明の舎」観」②

第 8 回：B「米代川流域の民と秋田杉」

第 9 回：A「李退溪の「理発」「理動」「理到」①

第 10 回：B「馬をめぐる幻視の古代」

第 11 回：A「李退溪の「理発」「理動」「理到」②

第 12 回：B「海に生きた下北の民」

第 13 回：A「退溪門下から旅軒・張顕光 (1554-1637) にいたる「公共」」①

第 14 回：B「稲作農民と品種の探求」

第 15 回：A「退溪門下から旅軒・張顕光 (1554-1637) にいたる「公共」」②

定期試験：なし

**8. 成績評価方法：**

平常点 70% (出席 30%、発表・討論 40%)、レポート 30%

**9. 教科書および参考書：**

授業中に適宜資料を配布します。

**10. 授業時間外学習：**

発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通して置く。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**12. その他：**

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中, 単位数：2

担当教員：河西 英通（非常勤講師）

講義コード：LB98804, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

東北思想の系譜と射程

**2. Course Title (授業題目)：**

Genealogy and Range of Tohoku Thoughts

**3. 授業の目的と概要：**

地域の視点に立った近代日本思想史の再描写・再構成をめざして、東北地域を対象に地域思想の系譜と射程を考察する。明治維新以降、1960 年代のいわゆる高度経済成長期に至る近代化の過程で、いかに東北思想が形成され、どのような機能を果たしてきたのかを、東北各地の民衆資料・地域史料に見られる言説を検討することを通して、考えてみたい。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

The purpose of this class is to study the genealogy and range of regional thoughts based on Tohoku area. Through this studying, we try to redraw and rebuild the modern Japan thought history from the viewpoint of region. Concretely, we think how Tohoku thoughts were formed and were functioning between Meiji Restoration and High economic growth period, by considering various discourses appeared in regional documents,

**5. 学習の到達目標：**

近代日本思想史を東北地域の視点からとらえ直すことを通して、思想の全国性と地域性の関連やナショナルヒストリーの多層性・多元性についての理解を獲得する。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

To understand the relations between national character and regional character on Thought and notice multilayer or pluralism on national history, by considering the modern Japan thought history from the viewpoint of Tohoku region,

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 0：ガイダンスーなぜ東北思想を考えるのかー
- 1：民衆思想と地域思想ー思想形成のメカニズムー
- 2：東北史研究と戦後歴史学ー東北はいかに学問されてきたのかー
- 3：戊辰戦争・明治維新と東北の誕生ー奥羽から東北へー
- 4：「白河北一山百文」考ー自己認識と他者認識のはざまー
- 5：立憲制と東北論ーナショナルな空間とリージョナルな生活ー
- 6：開発と東北ー後進地・植民地論のなかでー
- 7：東北史の形成ー日本史・世界史との対比ー
- 8：凶作・飢饉のイメージー歴史表象の重圧に対抗するー
- 9：海と雪と東北ー東北は一つではないー
- 10：東北像の造形ーステレオタイプはいつでも新しいー
- 11：戦争と地方主義ー加害と被害の相関性ー
- 12：むのたけじの東北主義ー怨みと望みー
- 13：東北の革命家と地域アイデンティティーー東北を救う？ー
- 14：まとめー3・11と東北思想ー

**8. 成績評価方法：**

レポート提出

**9. 教科書および参考書：**

河西英通『東北』中公新書、2001

河西英通『続・東北』中公新書、2007

河西英通『「東北」を読む』無明舎、2011

Hidemichi Kawanishi, Tohoku: Japan's Constructed Outland, BRILL, 2015

河西英通『「社共合同」の時代』同時代社、2019

**10. 授業時間外学習：**

とくになし

**11. 実務・実践的授業/Practical business：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

I hope all of you enjoy this class!

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：片岡 龍 (教授)

講義コード：LB61501, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

「辺境」の観点から日本思想史を再考するⅡ

**2. Course Title (授業題目)：**

Reconsidering the history of Japanese Philosophy from the perspective of "Frontier"2

**3. 授業の目的と概要：**

日本思想史を「辺境」の観点から再考することを目的とし、テキスト (A 片岡龍『16 世紀後半から 19 世紀はじめの朝鮮・日本・琉球における<朱子学>遷移の諸相』、B 真壁仁・野添憲治『民衆史としての東北』) を精読した発表をもとに、討論をおして思想史の方法論的自覚を高める。

**4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)**

The purpose of this study is to reconsider the history of Japanese Philosophy from the perspective of "Frontier", and to raise the methodological awareness of the history of thought through discussions based on presentations that carefully read the two texts.

**5. 学習の到達目標：**

「辺境」の問題を共有し、専門を横断して研究領域を開拓する能力を養成する。

**6. Learning Goals(学修の到達目標)**

This course aims to share the problem of "Frontier", and to develop the ability to set a research topics across specialties.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業は基本的に発表・討論形式で進める。

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：B「碑は語る ある義民伝承」

第 3 回：A「藤原惺窩 (1561-1619) とその周辺の「天道」観」

第 4 回：B「人権の目覚めと私塾教育」

第 5 回：A「中江藤樹 (1608-48) の「神理」と<朱子学>」

第 6 回：B「東北線機関方」

第 7 回：A「伊藤仁斎 (1627-1705) における「心性」と「経世」」

第 8 回：B「昭和恐慌期と北方の教師たち」

第 9 回：A「荻生徂徠 (1666-1728) の「天命」説と「修辞」論」①

第 10 回：B「津軽人の気質と風土」

第 11 回：A「荻生徂徠 (1666-1728) の「天命」説と「修辞」論」②

第 12 回：B「終一『民衆史としての東北』の課題」

第 13 回：A「蔡温 (1681-1761) における「心学」と「実学」

第 14 回：A「大田錦城 (1765-1825) と丁茶山 (1762-1836) における「生命」と「靈性」」①

第 15 回：A「大田錦城 (1765-1825) と丁茶山 (1762-1836) における「生命」と「靈性」」②

定期試験：なし

**8. 成績評価方法：**

平常点 70% (出席 30%、発表・討論 40%)、レポート 30%

**9. 教科書および参考書：**

授業中に適宜資料を配布します。

**10. 授業時間外学習：**

発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**12. その他：**

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 片岡 龍 (准教授教授)

講義コード：LB53302, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

**1. 授業題目：**

日本思想史の諸問題 I

**2. Course Title (授業題目)：**

Varies issues of history of Japanese thought1

**3. 授業の目的と概要：**

卒業論文作成の前段階として、受講生がそれぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究や主要な史料を紹介する。また発表の準備を通じて、文献検索の方法や辞書等の使い方を学ぶとともに、そのテーマをめぐって研究史上どのような問題が残されているかを考える。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメントターを付ける。参加者には積極的な発言を期待する。

**4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)**

As a preparatory step to preparing a graduation thesis, students will present their typical research and major historical materials on the topics they are interested in. (See Japanese text above for details.)

**5. 学習の到達目標：**

卒業論文のテーマの決定

**6. Learning Goals (学修の到達目標)**

Determining the thesis theme.

**7. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表 1
- 3 研究発表 2
- 4 研究発表 3
- 5 研究発表 4
- 6 研究発表 5
- 7 研究発表 6
- 8 研究発表 7
- 9 研究発表 8
- 10 研究発表 9
- 11 研究発表 10
- 12 研究発表 11
- 13 研究発表 12
- 14 研究発表 13
- 15 研究発表 14

**8. 成績評価方法：**

レポート [80%] 出席 [20%]

**9. 教科書および参考書：**

なし。

**10. 授業時間外学習：**

ブレジュメは 1 週間前、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**12. その他：**

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 片岡 龍 (准教授教授)

講義コード：LB63302, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Varies issues of history of Japanese thought 2

3. 授業の目的と概要：

前semesterでの報告を踏まえ、演習参加者各自が、史料の読解にもとづくその後の研究成果を発表し、その内容をめぐって討論を行う。発表者は卒業論文に結びつくような、オリジナリティのあるレベルの高い報告を目指してほしい。発表者にはそれぞれコメントターを付ける。演習参加者の活発な発言を期待する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Based on the report from the previous semester, each participant of the exercise will announce subsequent research results based on the reading of historical materials, and will discuss the contents. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：

卒業論文作成の準備と研究内容の深化

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Preparation of graduation thesis and deepening of research contents

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

レポート [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』ミネルヴァ書房

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』新書館

10. 授業時間外学習：

ブレジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

